

広島県立もみのき森林公園の活用の検討に向けた民間事業者からの意見募集 事業概要書

1 募集の趣旨

現在、広島県では、県立もみのき森林公園（以下「本公園」という。）の今後の再整備を含めた活用に向けた基本構想の検討を行っています。施設の老朽化が進む中で、魅力ある再整備や活用を行っていくにあたっては、時代ニーズに沿った公園機能や質の高いサービス提供とともに、その事業性についても従来の管理運営方法（指定管理者制度）にとらわれず、幅広い方法を視野に入れながら検討を進める必要があると考えています。

本募集は、民間事業者の方々の本公園に対する評価や期待、再整備や新たな導入機能に関する意向やアイデア等を聴取することにより、本公園の整備方針・活用内容、市場性の参考とすることを目的として実施するものです。そのため、事業概要や設問項目の内容は、本募集のための想定としています。

2 対象施設の概要

▼本公園の概要

施設名称	広島県立もみのき森林公園（全体面積：400ha）
所在地	広島県廿日市市吉和1593-75
具体用途	野外レクリエーション施設
財産区分	行政財産（公の施設）
設置日	1984年（昭和59年）7月供用開始（36年以上経過）
設置目的・趣旨	優れた自然環境を有する森林の保護、利用増進を目的に以下の施設を配置 ○合宿・研修等長期滞在も可能な宿泊棟，研修棟，体育館，運動施設 ○森林浴を目的とした遊歩道，芝生園地 ○野外活動を楽しむためのキャンプ施設（テントサイト，トイレ，炊事棟）
所有形態	敷地：広島県 施設：広島県，廿日市市
区域区分	都市計画区域外
容積率・建蔽率	なし
主な地域地区等	なし
自然条件	<地勢> 海拔高は約750～1,070mの間にあり，中央部に水内川の源流部をはさむ約400haの一団地を形成している。 <気候> 年平均気温は11℃前後（長野市とほぼ同じ）で，広島市の16℃に比較してかなり低い。年降水量は2,200mm前後で，積雪期間は約40日である。
アクセス	中国自動車道 吉和ICから6km（広島駅から車で1時間～1時間半程度）



▲本公園の位置



▲本公園の敷地範囲

3 主要施設の現況

本公園内の主要な既存施設の現況は、下表のとおりです。

▼主要施設の概要

施設名称	施設構造・内容	延床面積 (延長距離)	整備年度	経過年数	利用状況	
公園センター地区	公園センター (もみのき荘)	RC造3階建 (地下1階)	3, 146.47㎡	昭和58年	約37年	稼働中
	研修棟	RC造2階建	686.81㎡	平成2年	約30年	稼働中
	体育館	RC造	970.15㎡	昭和61年	約34年	稼働中
	キャンプ場 (常設キャンプ場)	テントサイト100基 (常設50張) トイレ3棟 炊事棟3棟		昭和57～59年	約37年	閉鎖 (老朽化)
	デイキャンプ場	野外炉5基 トイレ1棟 炊事棟1棟		昭和57～59年	約37年	稼働中
	テニスコート	全天候型5面		昭和57～60年	約36年	稼働中
	運動広場 (多目的グラウンド)		9, 984.50㎡	昭和57年～ 平成元年	約35年	稼働中
	野外ステージ	木造(トイレ付)	180㎡			稼働中
	芝広場 (スキー場)		6ha	昭和56年	約39年	稼働中 ※ロープリフトは 稼働休止
	民俗資料館	木造2階建	270.75㎡			稼働中
	サイクリングロード		(6, 180m)	平成元～2年	約31年	稼働中
家族旅行村地区	オートキャンプ場	テントサイト60基 (常設8張) 炊事棟2棟 トイレ4棟		昭和59年～ 平成元年	約34年	稼働中 ※冬季は閉鎖
	バーベキュー広場	野外炉20基 炊事棟1棟 トイレ1棟				稼働中 ※冬季は閉鎖
	アスレチックコース (わんぱくの森)	アスレチック32基				稼働中 ※冬季は閉鎖

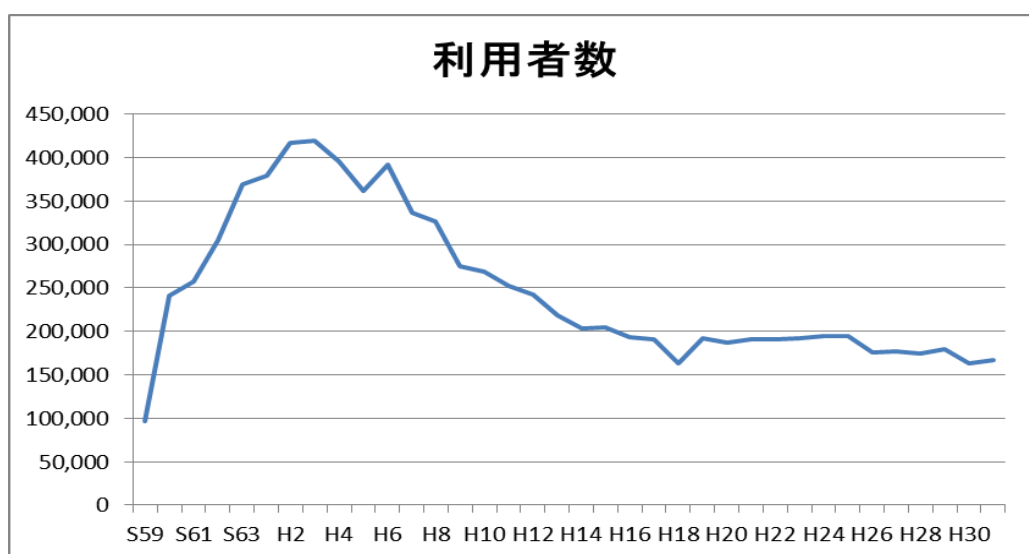
▼利用者数の推移

利用者数

(単位:人)

S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3
97,000	241,209	257,047	305,086	369,423	379,664	416,856	419,270
H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
395,600	361,000	392,000	336,800	326,000	275,000	269,000	252,000
H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
242,500	218,000	203,100	204,000	193,800	190,800	162,500	192,200
H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
187,600	190,400	191,000	192,000	195,000	194,800	176,000	177,300
H28	H29	H30	R1				
174,000	179,000	163,000	167,000				

※利用者数は、平成3年度の約42万人をピークとして下降し、平成16年以降は20万人を下回り、近年では横ばい状態に推移しています。

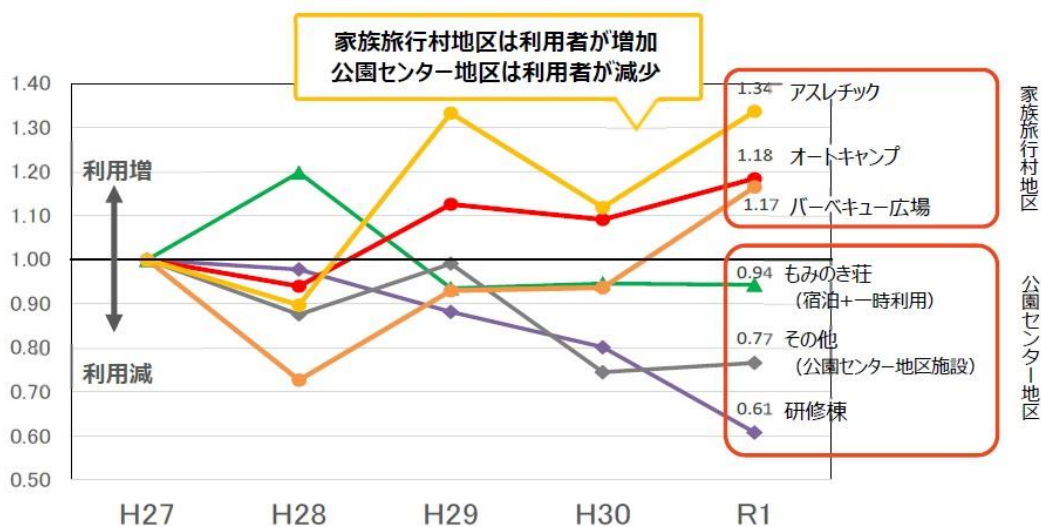


<もみのき森林公園利用者の推移>

(単位:人)

		H27	H28	H29	H30	R1
公園センター地区	もみのき荘 宿泊	8,335	10,004	7,457	7,663	7,742
	もみのき荘 一時利用	643	752	940	834	730
	研修棟	6,681	6,535	5,891	5,357	4,062
	キャンプ場	1,050	440	564	374	135
	テニス	1,496	1,002	1,317	710	682
	運動広場	2,631	2,932	2,210	2,073	2,081
	野外ステージ	142	0	0	0	0
	貸自転車	4,448	3,863	5,070	3,544	4,318
	体育館	6,730	6,090	7,053	5,486	5,311
家族旅行村地区	オートキャンプ	7,140	6,712	8,042	7,793	8,456
	バーベキュー広場	3,512	2,554	3,266	3,290	4,092
	アスレチック	12,195	10,942	16,257	13,647	16,308
	その他日帰り	122,297	122,174	120,933	112,229	113,083
入込利用者計		177,300	174,000	179,000	163,000	167,000

施設別の利用者を見ると、オートキャンプ場をはじめとする家族旅行村地区は利用者が増加しているものの、もみのき荘のある公園センター地区は利用者が減少している状況です。



▼収支状況の推移

<もみのき森林公園収支状況>

(単位：千円〔税抜〕)

		H27	H28	H29	H30	R1
収 入	県委託料	10,000	11,559	11,559	11,559	11,558
	利用料金収入	39,035	44,148	40,769	38,911	42,811
	その他収入	69,729	71,684	67,641	65,059	60,885
収入計(A)		118,764	127,391	119,969	115,529	115,254
支 出	人件費	59,274	62,678	59,077	56,861	52,745
	光熱費	11,989	11,468	12,361	13,024	12,282
	施設等保守点検	5,861	6,070	6,836	6,401	6,464
	施設維持修繕費	1,989	2,989	2,231	1,844	1,446
	事務局費	1,270	1,095	1,014	1,018	1,131
	その他	41,100	42,345	39,098	37,941	37,124
支出計(B)		121,483	126,645	120,617	117,089	111,192
収支(A) - (B)		▲ 2,719	746	▲ 648	▲ 1,560	4,062

4 再整備における課題

本公園の再整備に向けて、現時点では次の3点が主な課題ととらえています。県は、これらの課題解決を図るような再整備となることを目指しています。

(1) 活かしきれていないポテンシャルの活用

- 県全体で、都市と自然の近接性を活かした新たなライフスタイルの実現を目指している中、都心部からのアクセスの良さを活かした、ターゲットの誘引がうまくできていない。
- 広大な敷地の中に多様な自然資源を有し、野外レクリエーションの場として四季を通じて利用者の増加が図れるような、ポテンシャルの高い要素が多い。
- しかし、それらの中には、広い園内に点在することや、利用者がその資源の中で楽しめるような整備がされていない等、さらに広く活用できる余地のあるものがある。

【課題1】現在は、活かすべき資源を活かしていない状態

(2) 変化する社会の動向への対応

- 本公園が設置されてから現在まで（36年以上経過）、社会は大きく変化し、また、新型コロナウイルスの感染拡大というこれまでにないインパクトによって、今後も大きく動いていく中で、機動的に対応できていない。
- 利用の多いオートキャンプ場においても、初心者でも手軽に楽しめるグランピング施設等、多様化するニーズに対応できていない。
- 利用者の低迷の要因としても、人口減少・少子高齢化の全国的な進行だけでなく、価値観や暮らし方等の人々の変化に対応できていない。

【課題2】変化する社会へ柔軟に対応していくことが求められる

(3) 既存施設の強化

- 設置後30年以上が経過し、施設の老朽化により一時的に利用を停止している施設もある
- 施設のバリアフリー、トイレの洋式化、多言語化された案内板設置等、公共施設として一般的に求められる機能が満たせていない部分もある。
- 現在最も利用されているオートキャンプ場は県内有数の規模であり、既存施設の強みである。

【課題3】既存施設の弱みをなくし、強みの更なる強化を図る必要

5 再整備・活用の方向性

5.1 再整備コンセプト

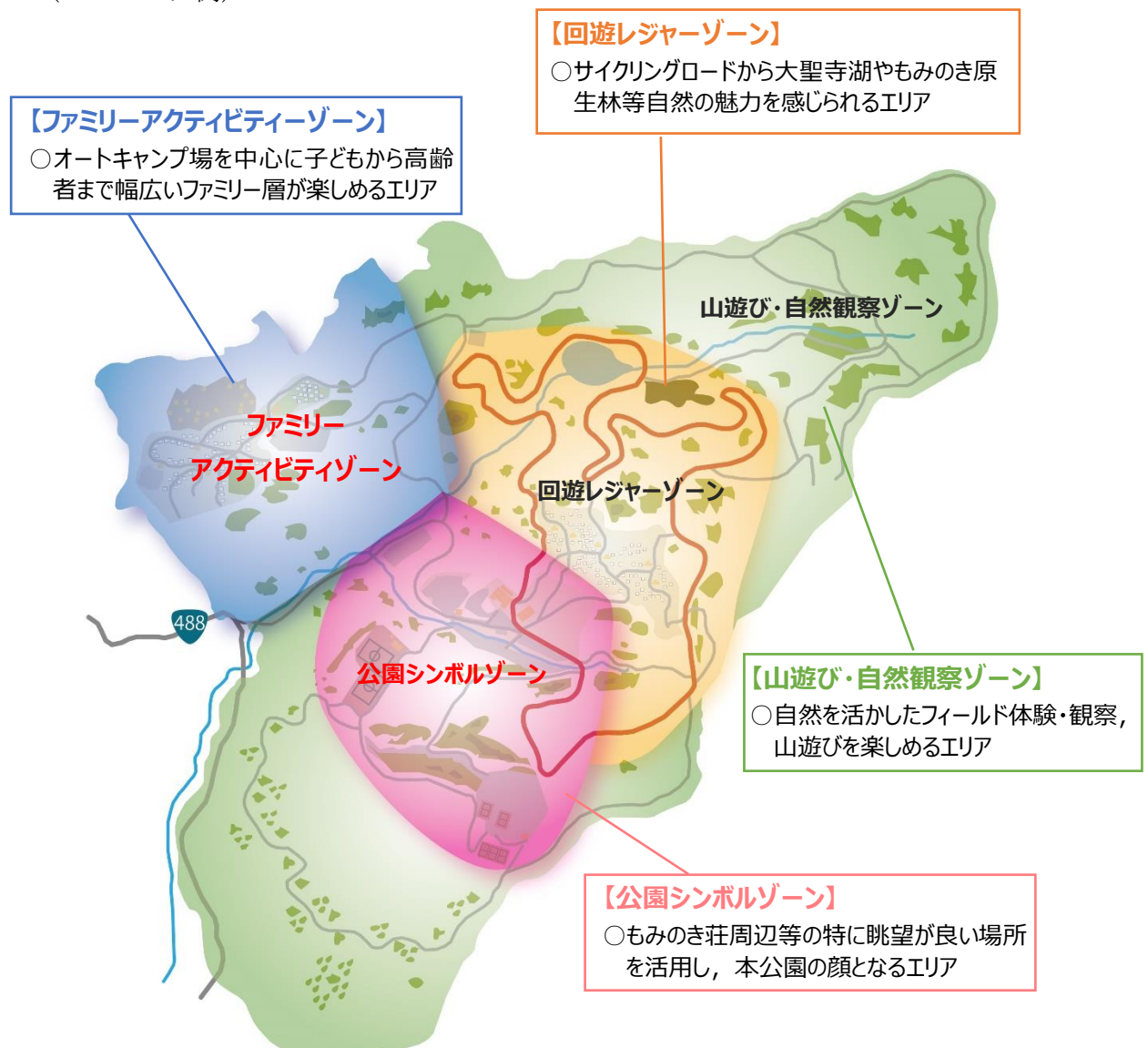
再整備コンセプトの方向性については、以下のとおり。

- ◆ 広島都市圏からの近接性を活かし、気軽に訪れ大自然を満喫できる公園
- ◆ これからの時代で求められる新たなライフスタイルに対応できる公園

5.2 再整備方針

現状の利用形態から本公園内をゾーニングした場合、下図のゾーン分けが想定されます。ただし、この枠組みにとらわれず、既存施設の強化（拡充）や自由な発想による新たな施設整備等の事業展開を提案することも可能です。

(ゾーニング例)



5.3 事業化に向けた方向性

既存施設の再整備や新たな機能の導入に向けては、民間事業者にとって自由度が高く事業成立性の高いものとしていきたいと考えています。

現時点では、概ね次のような条件で成立可能な事業の構築を目指したいと考えています。

(1) 事業範囲

施設の設計、建設（改修）、維持管理、運営までを一括して民間事業者に委ねる（民間主導）。

(2) 事業方式

既存施設の強化（拡充）や自由な発想による新たな施設整備等民間主導による整備・運営が可能な幅広い事業方式 ※PFI方式、定期借地方式 等

(3) 対象施設

上記（1）の事業範囲の対象とする施設の今後の活用方法としては、主に以下の2パターンが考えられます。

※この2パターンに、特にこだわる必要はありません。

①本公園全体

②特定のエリアのみ

6 事業提案における条件

公的機能の確保として、子どもから高齢者までの県民すべてが気軽に自然とふれあう機会（教育利用・研修・自然体験）を提供できる場を含めた、既存施設の有効活用やゼロベースからの自由な発想による提案としてください。

<公的機能の提供の具体例>

現在の「わんぱくの森（アスレチックコース）」等、親子で気軽に訪れ、子どもが楽しめる施設の活用や子ども利用、学校利用（研修）等をターゲットとした低料金でも自然とふれあえる施設等も取り入れる等、より多くの方に利用してもらえる公共施設としての機能も維持する提案としてください。

以上